

## 山口県萩市中心市街地における医療法人運営施設の概要

- 木造民家を活用した通所介護施設と介護予防・生活支援サービスの一体的整備運営 その2 -

正会員 ○三島 幸子\*  
準会員 瀬戸口 佳奈美\*\*  
正会員 中園 真人\*\*\*医療法人 通所介護施設 事業概要  
介護予防 生活支援

## 1. はじめに

その1では医療法人社団田町診療所の事業概要を整理し、施設の整備プロセス及び立地特性を明らかにした。本論では暖家・四縁・美手の平面構成及び事業内容を整理し、各施設の運営状況を明らかにすることを目的としている。

調査は3施設の平面図の収集及び家具配置の記録を行った。調査時期は2018年5月～12月である。

表1 3施設の概要

施設名	暖家		四縁			美手	
	通所介護	認知症対応型通所介護	短時間デイサービス	体・心・食サロン	認知症カフェ		
サービス内容	要介護	要介護(認知症)	要支援・事業対象者	一般	一般・認知症		
利用対象者	要介護	要介護(認知症)	要支援・事業対象者	一般	一般・認知症		
構造	木造2階建	木造平屋	木造2階建				
延床面積(m <sup>2</sup> )	279	172	136				
開設時期	2005.7	2012.4	2016.4	2016.12	2016.12		
営業日	月～土	月～土	月・火・木・金	土	第3日		
営業時間	8:00-17:30	8:00-17:00	9:30-17:00	8:30-13:00	13:00-15:00		
定員	27	12	10	-	-		
登録利用者数	59	23	35	-	-		
スタッフ数	13	6	9				

## 2. 暖家における平面構成と事業内容

3施設の概要を表1に示す。暖家は要介護の高齢者を対象とした施設であり、木造2階建て、面積は279m<sup>2</sup>の施設である。定員は27名で、登録者数は59人である。職員は13名で対応している。

暖家の平面図を図1に示す。南北に細長い平面構成であり、居宅介護支援事業所が併設している。玄関を入るとすぐに食堂兼機能訓練室①があり、利用者の1日の居場所である。食堂兼機能訓練室①の奥にはキッチンが配置されているため、職員はキッチンから利用者の様子を見ることができる。また、別に機能訓練室②があり、トレーニングマシンも配置され個別のリハビリ・機能訓練にも対応可能である。和室は静養室として使用され、ベッドが3台配置されている。浴室は個浴が3つあり、1度に3人まで入浴可能である。2階は以前居宅介護支援事業所として使用されていたが、現在は1階に移動し、通所介護の職員の休憩場所として時々使用されるが、主に収納場所として使用されている。

暖家では施設独自の通貨「ほっちゃ」を取り入れている点が特徴であり<sup>注1)</sup>、体操やレクリエーションに参加するともらえる。貯めると職員とドライブや買い物、自分の写真入りカレンダー等特典と交換できるシステムである。これにより、利用者の機能訓練への参加を誘発している。

## 3. 四縁における平面構成と事業内容

四縁は認知症高齢者を対象とした施設であり、木造平屋、面積は172m<sup>2</sup>の施設である。定員は12名で、登録利用者数は23人である。職員は6名で対応している。

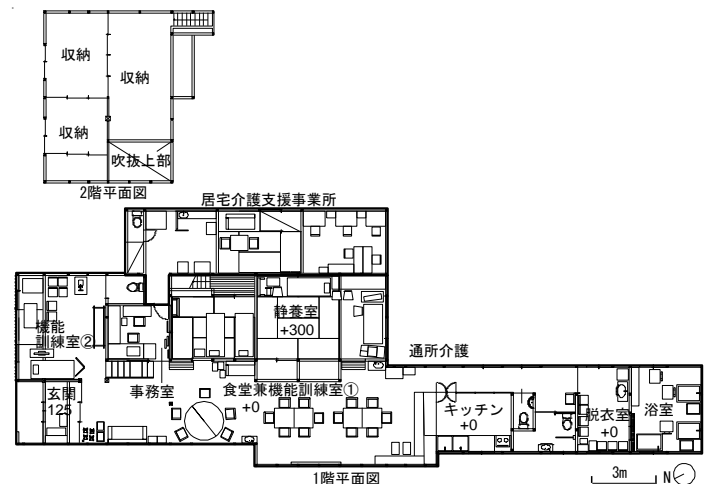


図1 暖家の平面図

四縁の平面図を図2に示す。現在はフローリングに改修された続き間座敷に加えて和室があるため、機能訓練室は2室確保されている。利用者は基本的に食堂兼機能訓練室①で1日を過ごす。体操や機能訓練は機能訓練室②で行われ、プログラムに応じて部屋を使い分けている。食堂兼機能訓練室①からは緑を眺めることができる。3畳の和室は静養室として使用され、ベッドが2台配置されている。さらに機能訓練室②の縁側の間に2畳の畳があり、ここにもベッドが2台配置されている。これは武家屋敷のお付きの使用人が待機する場所であったことが考えられ、武家屋敷ならではの平面構成である。奥に広

Outline of the facilities managed by the medical corporation in the central area of Hagi city, Yamaguchi prefecture  
Management of a day care facility, preventive care and living support service converted a wooden house (Part 2)

MISHIMA Sachiko, SETOGUCHI Kanami, NAKAZONO Mahito

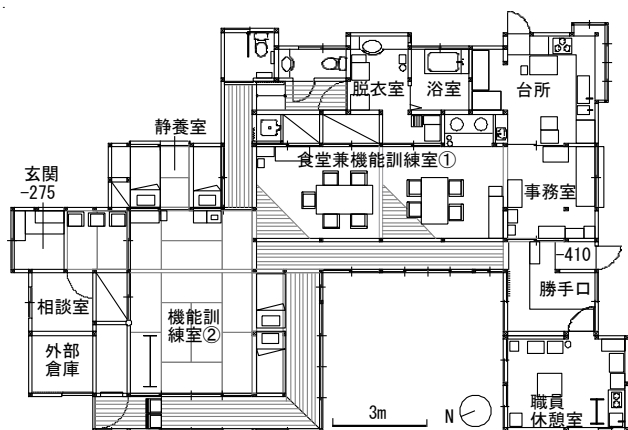


図2 四縁の平面図

表2 四縁の年間行事予定表(2016年)

月	スケジュール	内容	作成
1	新年会・初詣	おせち料理・お正月遊び	生きがい展示物
2	わくわくクッキング	ホットプレートでの調理・生きがい準備	
3	ひな祭り週間	季節のおやつ・ひな人形設置	ひな人形・展示物
4	花見ドライブ(奈古)飯	お弁当	展示物
5	グランドゴルフをしよう	生きがい祭り(22日)	
6	買い物ドライブ・生きがい祭り(飯)	おやつ持参	
7	冷たい物を食べにこう	おやつ食べに行く	万華鏡
8	夏祭り	屋台・七夕見学	
9	敬老会(慰問)	お祝い御前	
10	運動会	お弁当	
11	紅葉ドライブ		押し花
12	クリスマス・忘年会(慰問)	ケーキ・クリスマスツリー設置	リース・しめ縄

い台所があり、昼食の準備や片付けを利用者も手伝うことができる。事務室は食堂兼機能訓練室①から続く場所に位置するため、事務作業をしながら利用者の様子をみることが可能である。

また、四縁では毎月季節に応じたイベントを積極的に行っている点が特徴であり、1例として2016年の年間行事予定表を表2に示す<sup>注2)</sup>。1月は生きがい展示物、3月はひな人形、12月はリース・しめ縄等展示物の作成が多くみられるが、4月は花見ドライブ、8月の屋台・七夕見学等外出するイベントも企画されている。これらの活動により、季節を感じたり、地域の方との交流を促進する等施設にしながら地域社会との関係の継続を図っている。

#### 4. 美手における平面構成と事業内容

##### 4.1 施設概要と平面構成

美手は要支援・事業対象者を対象とした短時間デイサービス、一般を対象とした体・心・食サロン、一般・認知症高齢者及びその家族を対象としたオレンジカフェを提供する施設であり、木造2階建て、面積は137.1㎡の施設である。

四縁の平面図を図2に示す。食堂兼機能訓練室①は現在フローリングに改修された広い続き間座敷であり利用

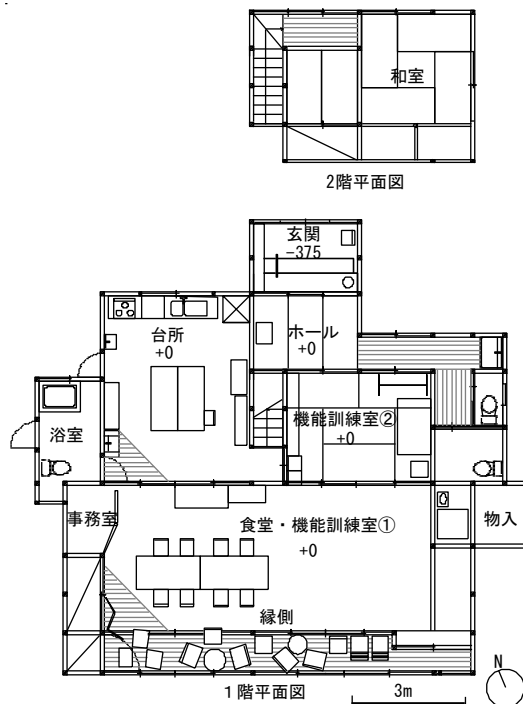


図3 美手の平面図

表3 体・心・食サロンの予定表(2018年7月)

	9:00	10:00	11:00	12:00
7日		ピラティス(1部)	ピラティス(2部)	
14日		ピラティス(1部)	ピラティス(2部) クッキング (夏バテ予防レシピ)	ランチ
21日	手仕事	ピラティス(1部)	ピラティス(2部)	
28日		ヨガ(1部)	ヨガ(2部) クッキング (お楽しみ)	ランチ

者の1日の居場所や活動拠点として使用されている。また、食堂兼機能訓練室①からは緑をながめることができる。機能訓練室②は荷物を置くための棚が配置され、荷物置き場として使用されるのみである。台所も広いため数名による調理も対応可能である。浴室や2階は使用されておらず物置となっている。

##### 4.2 短時間デイサービス

短時間デイサービスの定員は10名で、登録利用者数は35人である。職員は主に9名で対応している。続き間座敷が利用者の1日の居場所として使用されている。食堂兼機能訓練室①が広いため、空間を2つに分けてプログラムに応じて空間を使い分けている。昼食は暖家のキッチンで調理されるため、台所は昼食の盛り付けや片付けのみに使用されている。

##### 4.3 体・心・食サロン

体・心・食サロンは高齢者に限らず誰でも参加可能である<sup>注3)</sup>。1例として2018年7月サロンの予定表を表3に示す。第1、2、3週はピラティス、第4週はヨガが行わ

表 4 オレンジカフェの内容

日付	内容
2016.12.19	クリスマスケーキ作り、歌
2017.01.22	歌、花燃ゆ座布団作り
2017.02.19	歌、ハーブの入浴剤作り
2017.03.19	演奏・歌、夏みかん菓子作り
2017.04.16	ギター演奏・歌、庭の散策
2017.05.21	歌、石ころアート
2017.06.18	認知症ミニ講座、歌、絵手紙
2017.07.16	施設長による「認知症になっても安心して暮らせる社会」のお話
2017.08.20	「認知症の人と家族の会」
2017.09.17	和菓子作り
2017.10.15	ロコモティブシンドロームの学習、予防体操
2017.11.19	認知症クイズ
2017.12.10	山口大学の川井准教授による若年性認知症のお話
2018.01.21.0 2.18	ギター・ハーモニカ演奏、歌
2018.03.18	見守りネットワークの現状、長門市・山口市の協体制度のお話
2018.04.21	認知症の人と家族の会が発行の冊子「ぼーれぼーれ」の読み合わせ
2018.05.20	「認知症の人と家族の会」
2018.06.17.0 7.15.08.19.0 9.16	ギター・ハーモニカ演奏、歌
2018.10.21	ギター・ハーモニカ演奏、歌(生きがい祭り)

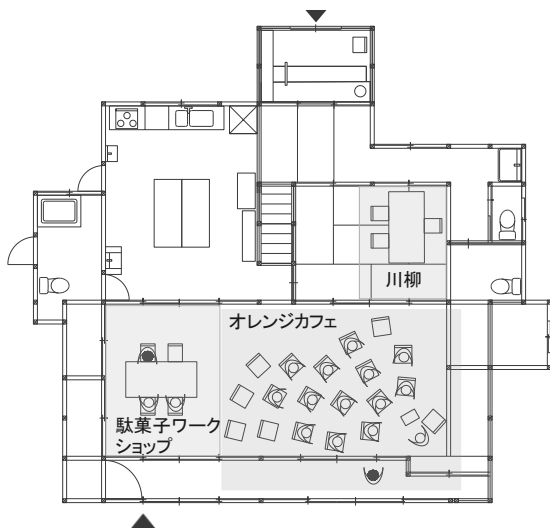


図 4 オレンジカフェの活動内容

れ、加えて第 2、4 週はクッキング及びランチ、第 3 週は手仕事が行われる。これは毎月固定であり、クッキングや手仕事の内容が毎月変わるシステムである。ピラティス及びヨガは田町診療所の作業療法士が担当し、高齢者以外の参加者もいるため、1 部は高齢者、2 部は高齢者以外と利用者を分けている。機能訓練室②で受付、食堂・機能訓練室①でピラティス又はヨガが行われる。クッキングは 1 部に参加した内の希望者と美手職員 1 名で行われ、カルシウムたっぷりレシピ、免疫力を高めるレシピ、夏バテ防止のレシピ等用意したレシピに沿って台所で行われる。ランチは 1 部、2 部の参加者が一緒にバイキング

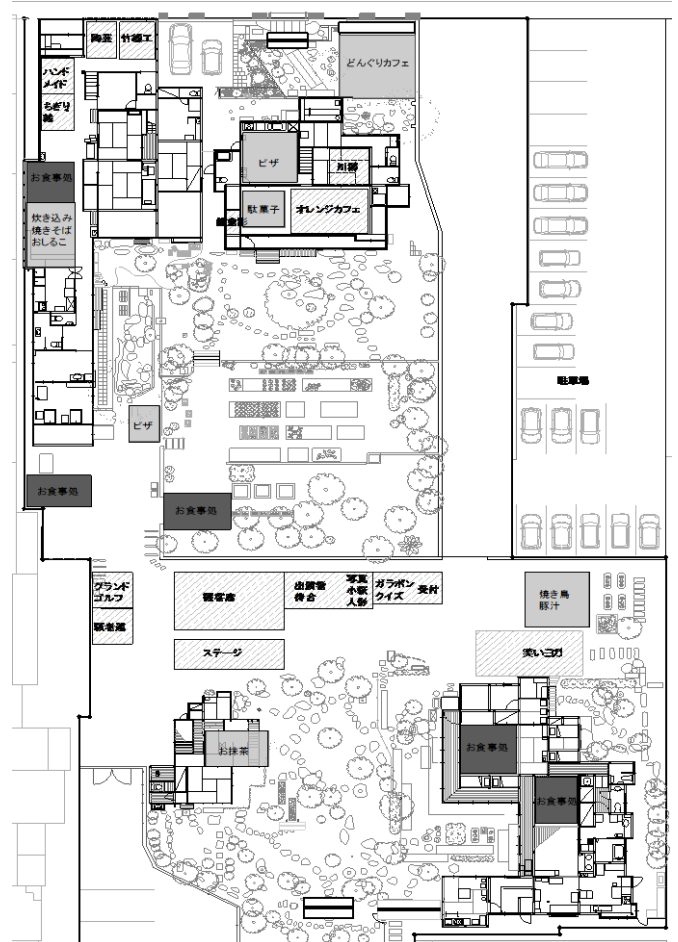


図 5 生きがい祭り時の会場位置図

表 5 生きがい祭りのステージプログラム

時間	内容 (団体名)
10:00	オープニング
10:05	和楽器演奏(バンブーオーケストラ)
10:25	パフォーマンス(田町診療所)
10:35	笑いヨガ(長谷さん)c
11:00	フラダンス(スマイルフラ)
11:25	日本舞踊(藤間小伊織会)
11:45	劇(暖家)
11:55	大正琴・ハーモニカ(キンコンカン)
12:15	スコップ三味線(四緑)
12:25	川柳(萩川柳会 大場孔晶先生)
12:45	歌謡舞踊(萩老連)
13:00	フィナーレ

形式で行う。そのため、交流の場としても機能している。手仕事はすぐにピラティスやヨガに移行できるよう台所で行われる。台所が広いので、8 名程度まで対応可能である。手仕事の例として、お香づくり、アロマバスボムづくり、パーバリウムづくり等が挙げられる。

#### 4.4 オレンジカフェ (認知症カフェ)

オレンジカフェは認知症の家族の相談場所や認知症を広く知ってもらうための場所であり、誰でも参加可能である。美手の職員が企画しており、外部講師を招いて行う。認知症に関するお話だけでなく、ギター、ハーモニカ演奏や歌のように音楽を楽しむ企画も近年では多い。このように、認知症対応のサービスを提供するだけでなく、認知症を学んだり住民同士が交流する場も提供している。

1例として2018年10月の生きがい祭りのときのオレンジカフェの様子を図4に示す<sup>註4)</sup>。この日は外部講師を招いて、ギター・ハーモニカ演奏、歌が行われた。部屋の角を中心に扇形に囲むように椅子が配置され、一緒に歌を歌う様子もみられた。

## 5. 地域交流イベント（生きがい祭り）

年に一度地域の方との交流イベントとして3施設合同で生きがい祭りを開催している。会場位置図を図5、ステージプログラムを表5に示す。暖家ではちぎり絵等の工作や焼きそば等の食事処、四縁はお食事処、美手はカフェ、ピザ等の食事処、オレンジカフェ、川柳の場として使用されている。庭の中央広場がステージとして使用され、和楽器演奏、大正琴・ハーモニカ等の演奏やフラダンス、日本舞踊等の踊り、劇やパフォーマンス等様々な出し物が催されていた。施設利用者だけでなく、家族や近隣の住民等様々な方が参加されており、交流が行われていた。このように地域住民の方にも施設の活動を知ってもらう機会をつくっている点は評価できる。

## 6. まとめ

- 1) 暖家では要介護の高齢者を対象としており、様々な介護度の利用者があるため、機能訓練室を2室確保することで個別にリハビリや機能訓練が行えるようにしている。また、ベッド数は十分であるとはいえないが、続き間座敷の静養室も確保している。また、利用者の機能訓練を誘発するため、特典と交換できる独自の通貨のシステムを取り入れている。
- 2) 四縁では認知症の高齢者を対象としており、続き間座敷に加えて和室があるため、プログラムに応じて部屋を使い分けている。また、食堂兼機能訓練室①から緑をみることができ、季節に応じたイベントも行われており、施設にいながら季節を感じたり地域社会との関係の継続を図る取り組みが行われている。
- 3) 美手では要支援・事業対象者を対象とした短時間デイサービスに加えて、一般の方を対象としたサービスも提供している。短時間デイサービスでは広い食堂兼機能訓練室①を2つの空間に分けてプログラムに応じ

た空間の使い分けをしている。体・心・食サロンではピラティス、ヨガやクッキング、手仕事が毎週決まったプログラムで行われ、診療所の作業療法士と美手の職員が連携して行っている。高齢者だけでなく一般の方も受け入れ、ランチを通して交流の場としても機能している。また、オレンジカフェでは認知症を知ってもらうための活動も行われており、高齢者だけでなく地域住民を巻き込んだ活動を行っている。

以上より、暖家は要介護利用者を受け入れる施設、四縁は認知症高齢者を受け入れる施設、美手は要支援・事業対象者を受け入れる施設と3施設で役割分担を図り運営していることが分かる。特に美手では体・心・食サロンやオレンジカフェのように高齢者だけでなく、一般の方も参加できる企画を行っている点は注目できる。生きがい祭りを含めて地域住民との交流を図り、高齢者以外の方への活動の場の提供は生活支援の観点からも重要な活動であると位置づけられる。また、ピラティスやヨガでの診療所の作業療法士の派遣等診療所との連携もみられ、医療法人ならではの活動がみられた点も評価できる。次の論文で、具体的な施設の運営状況の分析を行いたい。

## 謝辞

研究を行うにあたり、医療法人社団田町診療所運営の各施設職員の方々の多大な協力を頂いた。末尾ながら記して謝意を表します。

## 注釈

- 1) 社会福祉法人 夢のみずうみ村山口デイサービスセンターの取り組みを参考にしたものである。
- 2) 文献1) より収集した。
- 3) 参加希望者は田町診療所で予約し、受付の際にピラティスは1000円、ヨガは500円、クッキング・ランチ、手仕事は500円を支払う。最初、ピラティスのみを行っていたが、ヨガも始める際に多くの人に参加してもらおうと500円に金額を下げたため、ピラティスとヨガで費用が違う。
- 4) オレンジカフェは利用者のプライバシーの関係上調査を行うことができなかったため、許可が得られた生きがい祭りの様子を示した。

## 参考文献

- 1) 医療法人社団 田町診療所 HP

\* 島根大学学術研究院環境システム科学系 助教・博士(工学) \* Assistant Prof., Institute of Science of Environmental Systems, Shimane Univ., Dr. Eng.  
\*\* 山口大学工学部感性デザイン工学科 学部長 \*\* Undergraduate, Dep. of KANSEI Design Eng., Faculty of Eng., Yamaguchi Univ.  
\*\*\* 山口大学大学院創成科学研究科 教授・工博 \*\*\* Professor, Graduate School of Sciences and Technology for Innovation, Yamaguchi Univ., Dr.Eng.